



自著紹介

『三江線BOOK： 乗るだけじゃない！ローカルガイドブック』

(ハーベスト出版、2016年11月)

橋本佳奈

(島根大学法文学部法経学科3年)

本書は「三江線沿線魅力化プロジェクト」の一環として制作された、JR三江線と沿線地域の魅力がぎゅっと詰まったローカルガイドブックです。島根大学の学生を中心とした編集スタッフが実際に三江線に乗って沿線各地域をめぐり、自分達の足で歩いて見つけ、そして体験した、様々なおすすめポイントを紹介しています。

三江線は、島根県江津市の江津駅から広島県三次市の三次駅までを結ぶ、全長108.1kmのローカル線です。明治時代中期に陰陽鉄道の建設願いが出されてから1975年8月31日の全線開通までは、太平洋戦争による工事の中断やダム建設計画の問題など数多くの危機がありました。本書では、その度に危機を乗り越えてきた三江線の歴史を当時の写真とともに「奇跡のローカル線～三江線ものがたり～」としてまとめています。

何度も危機を乗り越えてきた三江線ですが、2015年秋、JR西日本によって三江線のバス転換が提案され、路線廃止に向けての検討が開始されました。

これを受け、三江線を見て育った江津市の青年（三江線沿線魅力化プロジェクト実行委員長）が「三江線の将来は厳しいかもしれないけれど、沿線地域を魅力ある地域にしていけば、きっと訪れる人が増え、地域が少しでも元気になるのではないか」という思いから、2016年3月に「三江線沿線魅力化プロジェクト」を立ち上げました。そしてクラウドファンディング「READY FOR?」で支援を募り、全国の三江線および沿線地域を愛する人々から寄せられた資金をもとに完成したのが本書です。

本書では、三江線にかけて「三江線に乗ってみたい35（サンコー）の

コト」という特集を組んでおり、編集スタッフが見つけた「三江線をより楽しむためにぜひここを見てほしい」と思うイチオシの魅力をひとりひとつずつ取り上げ、記事にしました。沿線にあるカフェの紹介、江の川でのカヌー、108.1kmを自転車で走破、温泉や商店など、様々な視点から三江線沿線の魅力について語りました。

また「駅ノート」や各駅のおもしろ情報など、駅そのものが楽しめるようなページや、橋や川、水門などといった川沿いを走る三江線ならではの情報、美術館など沿線スポット、自然や景観、ご当地グルメなどについていくつかの小さな記事をまとめて紹介しています。他のガイドブックには載っていないような、独特の捉え方で編集スタッフが感じたままの三江線の魅力を紹介しているのが特徴です。

この特集の他にも、ローカルジャーナリストの田中輝美さんが地域で輝く人取材した「三江線を彩る人たち」、鉄道情報や地域のイベント情報、おすすめローカルフードやお土産、宿・温泉情報など、三江

線に乗って出かける旅で役立つ情報を掲載しています。

鳥根大学の学生が、三江線をきっかけに地域について考え、地域を感じ、写真や記事を通してそれらの魅力を伝えることを目指したのが本書です。何度も話し合いや合宿を行い、編集スタッフみんなで推敲を重ねました。三江線は2018年3月に廃線になってしまいますが、廃線後も沿線の魅力はずっと残るはず。この本を手に、三江線沿線地域に足を運んでもらい、私たちが感じたたくさんの魅力を多くの方々にも見てほしいです。



石見築瀬駅にて（著者撮影）